

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホーム サンフラワー		
所在地	岩手県宮古市板屋4丁目4番2号		
自己評価作成日	平成24年11月16日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon:true&JizyosyoCd=0390200079-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◇一日のほとんどを過ごすリビングは目の前に広がる畑で菜園を楽しみ、見ごろ食べごろを話題に朝に昼に夕に賑やかな社交場となっている。</p> <p>◇可能な限り「普通の暮らし」の姿から遠ざけない実践を叶える体制として夜勤職員の2人配置、夜の入浴支援等。</p> <p>◇MBO導入による職員全員の自己啓発の実践。</p> <p>◇「ISO9001」活用により継続的業務の改善、ケアの質の維持・向上が図られている。</p> <p>◇地元自治会や近隣小学校行事への積極的な参加や交流が、幅広い世代の出会いを生み、認知症の理解を深める活動になっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昼は行動を、夜間は休む生活のパターンを大切にする支援に取り組んでいる。朝・昼・夕に、一人ひとりの能力に応じてそれぞれの場所で、掃除を利用者と一緒に行っている。食事は、調理から最後の後片付けまで利用者と職員が一緒になって行い、出来あがると、食卓を囲んで、一緒に食べている。野菜も畑で作っている。夕方になると、リビングに流していた懐かしの歌の音量を徐々に下げたり、照明を落とすなど、眠りにつきやすい雰囲気作りをしている。入浴支援も夕方以降に行われている。一日の疲れと汗を流し、さっぱりとした気分で就寝につく生活スタイルとなっている。夜勤も二人体制で、安全・安心に対応している。地元の自治会や小学校等との交流も活発で、認知症の理解と、利用者の生きがいに繋げている。利用者の思いの把握に「杵柄シート」の活用が取られている。ISO9001の活用により、管理者・職員が、自己評価・改善意識を高め、更なるケアの向上を目指し、努力されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「いたわりとやさしさ」をモットーに職員の行動規範として現場に入る前に声に出して読み上げ理念の共有と実践に努めている。	スタッフ室で、理念「いたわりとやさしさ」を仕事に入る前に声を出して読み上げている。理念を意識し、すべてのケアにつなげるため努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会主催の行事への参加、サンフラワー独自の行事への呼び込み等、積極的に取り組み、地域の方との自然な関わりが生まれている。	自治会に加入しており、道路の掃除、花壇づくり、盆踊りや敬老会等に出かけている他、みやこ秋祭り夜の手踊りパレードや、学校の運動会、ロードレース大会の見学にも積極的に出かけており、地域の小学生とも交流がある。また、地元自治会活動の「お喋りクラブ」の方々が来訪し、年縄作りや昔馴染みのひつつみ等一緒におやつを作り、昔話をして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方の参加による「お喋りクラブ」との交流を重ね、認知症の方への支援の方法や実際の暮らしぶりに接して行く中で自然と発信できている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動内容や情報交換にとどまらず委員から率直な意見をいただき、ケアの現場に活かしている。	奇数月に、大体1時間弱での開催となっている。事業所から運営状況や、利用者の状況について説明し、助言をいただく機会にしている。避難経路の手すりのことや、市の図書館利用、おしゃべりクラブへの参加などについて助言をいただいている。	事業所の様子を説明し、意見を運営に反映させている状況も踏まえ、更に、警察や消防署職員にも議題等に応じ、参加していただき、助言等をもらうことも重要を思われることから、今後、会議のメンバーやゲストの選考検討がなされることに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を貴重な機会として現場の考えや取り組みを伝えるなどコミュニケーションをとっている。	強い風雨・地震のあとに市(行政)からの安否の電話を頂いている。運営推進会議において、現場を見て頂きながら、運営状況や、サービス内容を説明し、意見をもらうようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事があっても拘束はしないケアが基本である事を認識し、窓や玄関には施錠せず、抑圧感のない普通の暮らしを支援している。	利用者と楽しく接することで、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握し、施錠等せずに、自由な暮らしを支援している。マニュアルも整備され、研修も行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待か？またその内容と具体例などを学び、もう一度自分達の介護場面を掘り下げ検証してみる機会を持って防止に取り組んでいる。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は内外研修を通じて学んだ制度の理解や知識を支援が必要となった場合には助言や橋渡し等活用できるよう話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進めている。料金改定の際は文章通知や来訪時に説明し疑問な点があれば応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見巣箱」を設置したり、家族が要望や意見等を示していける場として家族懇談会を年2回設け、意見交換が出来る。	意見箱を設置したり、家族が事業所を訪問された時に、話し合いの場を設けたり、家族懇談会を開いて意見を聞くように努めている。母の日と敬老の日には、午前中は家族と利用者が食事会をし、午後は家族懇談会を和やかにし、意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「業務改善会議・カンファレンス」を通じ、ケア現場の職員の意見を十分に聴きモチベーションやケアの質の向上につなげている。	毎月、業務改善会議やカンファレンスで、職員のケアに関わる意見を出し合い、課題解決に取り組んでいる。また、「私ができる事・出来ない事シート」に個人ごとに記入され、集約して会議で検討されることもあり、検討した予防策を個別マニュアルに反映、共有して事故防止につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員がMBOに取り組み、組織への貢献、個々の能力開発に力を入れている。また自己啓発援助制度を活用し資格取得に向けサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修と共にOJTを計画的に行い、スキルチェックによる個々の得て不得手を確認し、全職員の学びの機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会沿岸北ブロック研修会を通じスキルアップを図り、職員交換研修での活動においては同業者同士の交流と質向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1人で抱えてきた緊張感がいかばかりだったか、また今までの生活とは一変してしまう為の不安な気持ち等に耳を傾けながら馴染みを築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の手に余る状況をめぐっての体験や思いに耳を傾け、また家族と本人との思いの違いを受け止めるなど関係性を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新たな生活の場に除々に馴染めるよう本人の要望に応えながら調整を行い、段階的な支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔とった杵づかで学ぶことがたくさんあり、持ちつ持たれつの相互の存在を認め合い、その能力を励まし合って職員も共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員対利用者という関係だけではない、家族を合わせた三角形の関りが持てるようケアチームの一員である事を事あるごとに発信し協働できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どんな生活背景でどんな人生を歩んできたのかを知り続ける努力をし、友人の臨終に居合わせる支援等、疎遠にならない取り組みをしている。	日常の散歩や、事業所に来訪して下さる方々との繋がりを大事にしている。散歩には、ほうきや、ゴミ袋をもって出かけ、道行く人たちと挨拶や言葉を交わしている。利用者や家族から、交流のあった友達や親戚、知人から情報を得て、連絡を取るなどして、交流を図ることに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員対利用者と言う単純な人間関係の構図にならないよう利用者同士の励まし合い、いたわり合い、今談義に夢中になれるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行先ケアマネ参加での定例家族懇談会では、本人の状況やケアの工夫等の情報を目の当たりに知って頂き、暮らしの継続性につなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「どんな風に暮していきたいか」の意思確認を継続的に行っている。意思表示の困難な方は声なき声に耳を傾け、向き合い、感じ取る努力をしている。	利用者担当職員が中心になって「どのように暮らしていきたいか」に関わることを念頭において、意思確認をしている。意思表示の困難な方に対しては、本人・家族・関係者などから情報収集し、総合的に思いや意向を把握し利用者の願いを叶えるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人がそれまでに築き上げてきた「生活の姿」の情報収集等を重ね、「昔とった杵柄シート」に盛り込み把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、新たな秘めたる力の発見に努め「私時間の過ごし方」「私の出来る事、出来ない事」シートで的確な現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化していく利用者の状態像と合わせたケアの工夫を実際に検証し出来る事が増えるよう、また役割として続けられるようプランを作成している。	毎日、利用者の状態と、どのようにケアしたか等を記録し、3ヶ月ごとに行うプランの見直しに、役立てている。記録する時間も確保されている。家族の意向や意見も取り入れ、作成されたプランは家族に説明し、署名をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやちょっとした変化などは申し送りや連絡帳で情報は共有し、必要に応じてケアプランの見直しや改善策を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜の秋祭りや盆踊りに出かけたり夏の海水に浸かりに出かけたりと利用者の声に耳を傾け臨機応変に展開している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元自治会の「お喋りクラブ」や近隣小学校行事への参加や交流、理美容院やスーパー、公民館等、地域の人や場の力を借りて取組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	認知症の専門医も必要に応じた眼科や歯医者も本人や家族が希望する馴染みの医師による医療を継続的に受けられるよう支援している。	利用者本人や、家族が希望するかかりつけ医に通院している。眼科や歯科なども、本人の馴染みの医師に継続して診てもらえるように支援している。通院や受診は、家族が基本的には対応することとしている。家族が都合つかない場合は、職員が同行している。家族が同行する場合は、事業所での様子を書いたものを渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を捉え、そこから生じる急変を予測し、早い段階で協力医療機関の看護師に相談、受診しながら状態悪化を防いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に何度も出向きPT、看護師長、家族を交えリハビリ計画から退院計画までの話し合いを積極的に持ちながらスムーズな退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族懇談会において、重度化した場合の本体施設への継続的移行の取り組みを話し合う等、家族には安心を抱いて受け入れられている。	家族には看取りまでは、対応していないことを説明している。重度化や終末期のあり方については、利用者の状態に応じて、相談を進めていくことにしている。希望等により、本体施設に移行してのケアを継続することも説明がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた手順や方法の周知徹底、心肺蘇生法やAED使用法の訓練を通じて緊急対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的にマニュアルに沿った昼夜想定の方針訓練を行っている。地域住民の協力隊と一緒に訓練に参加協力くださる住民の方もいる。	マニュアルに沿って、消防署と地域協力隊参加のもと、利用者も参加し、防災訓練が実施されている。スプリンクラーも設置され、通報装置も出来ている。食物や水も備蓄されており、夜勤者も2名体制で安心を図っている。避難の仕方や、消火器の使い方、心肺蘇生法の体験も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念と7か条要項を復唱して現場に入り、意識して敬意を持った言葉遣いと態度で接する事が出来ている。また事例検討を行い、確認しあっている。	理念と7か条要項が、スタッフ室に掲示されている。これを出勤時に、各自復唱してからケアに当たるようにしている。このことで、利用者への接し方、言葉遣い等が改めて意識されている。「ありがとう」、「おかげさま」「助かった」ということを言えるような感謝の場面を作り、体験して頂くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者が持つ思いや願いのサインを引き出す環境を意図的に作り、「ほのぼのトーク」等、様々な仕掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性と持てる力を発揮しながら、本人が自然なペースで一日を気分よく過ごせるよう柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時からの馴染みの美容院に出掛けられるよう支援したり、髪型や服装は本人に決めていただく等、個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付け等、一連の作業を共に行い、できればを誉めあいながら楽しく食卓を囲んでいる。嗜好調査も献立に反映している。	食事については、準備から後片付けまで、能力に応じて参加し、食卓を囲んで楽しめるようにしている。エプロン姿で参加しており、家庭的な雰囲気を感じられた。食材も(自分たちで)買いに行ったり、畑から収穫して味わっている。「手作りひゅうず」など、おやつ作りにも積極的に取り組んでいる。食べている雰囲気も楽しさに満ち溢れていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本体施設栄養士による栄養バランスに関しての指導やアドバイスを受けながら利用者の体調や嚥下状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯肉、舌ブラッシングの取り組みと義歯、歯ブラシは毎日欠かさず徹底除菌を図り、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用でも排泄習慣を忘れさせない為、可能な限りトイレでの排泄を支援している。また外出や季節に応じた排泄用品を個々に使用している。	自立されている方は2名で、大部分の方は声がけ等によりトイレでの排泄支援を基本として促している。排泄チェック表を参考にしながら、トイレ誘導に努めている。(リハパン等は)厚さなど、季節を配慮したつくりの物を使用している。水分摂取にも配慮したケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃からバランスの良い食事と運動、朝起きぬけの飲水等、更に改善が見られない時はかかりつけ医に相談する等、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の長年の生活習慣にこだわった、夕食後から就寝前の入浴支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯等、季節を感じる入浴剤でも変化をつけている。	入浴は、夜の時間帯に行われている。利用者の生活習慣に合わせた時間帯に入浴が行われている。バイタルチェックにより、入浴可否を行い適切に対応している。ホームでも家庭の習慣を取り入れ、季節を感じる入浴剤の使用等で、入浴の楽しさを倍増させる工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り身体を動かし外気に触れる時間を設け、また毎日の足洗いと夜の入浴は心も身体もリラックスでき、更なる安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一番身近な観察者としてどんな疾患を抱えて、どんな薬を飲んで、どんな副作用をもたらすかを知る為のシートを作成し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の持てる力、新たに秘めたる力を発見する努力を尽くし、役割を存分に発揮できる出番をいっぱい仕掛けて張り合いある日々を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	清掃活動を兼ねた散歩の継続的实施により地域の方との自然な関りが充実している。色あせる事なく残っている神社、寺の参拝は恒例化している。	散歩ボランティアの方の協力で、散歩をしながら、近くにある公園や道路の掃除に出かけている。市内にある神社や、お寺巡りを継続して行っている。浄土ヶ浜にドライブし、足まで海に入ったり、みやこ秋祭り手踊りパレード見物に夜出かけたり、盆踊りに出かけるなどの支援が行われている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社や寺の参拝、ショッピングや外食の際には個々に財布を持って出掛け、見守りで支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族のバースディや日常的に電話をかける支援をしている。一日も欠かさず日記をつづる、家族への年賀状や伝言文を記すことの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには時代を反映させた懐かしい歌が流れ音・光には夜の眠りにふさわしい状態へ誘う手立てを尽くす等、こだわりを持って支援している。	清潔感があり、きれいにしている。朝・昼・夕の3回、利用者が職員と一緒に掃除されている。窓も大きく、外を眺めることが出来、季節の変化を見ながら暮らしている。リビングには、懐かしい音楽が、静かに流されている。音楽効果や、照明効果の工夫が施されている。広く静かで、のんびり、ゆったりと暮らせる造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日のほとんどをリビングで過ごされる方が多く、ソファー、テーブル席、小上がりにそれぞれ気の合う同士が集まって今談義に花を咲かせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や椅子やテーブル等、使い慣れた生活用品、着慣れた服や着物等に囲まれた居室は利用者の気が休まる空間になっている。	ベット以外は利用者が持ってきたもので、家族の写真やテレビ、椅子、テーブル、着物などがあつた。着物は、お盆や七夕、母の日などに、着ていたく場面を作る支援を行っている。利用者が住みやすいように、持ち込んだものの配置がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日は何月何日か解る日めくりカレンダーの工夫、自室がわかる工夫、自分の排泄用品の始末ができる工夫等、自立に向える支援をしている。		